

祝 辞

社団法人日本プロテニス協会 理事長 渡辺 功



日本テニス事業協会が設立10周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。十年一昔という言葉がございますが、設立から十年という歳月は「昔」という言葉での表現が不適當なほどに、あらゆる事象が新鮮な記憶として、現在形のまま留まっておられることと存じます。設立当初の情熱を不変のものとし、今もなお活発に活動をされています貴協会の姿勢に、同じテニスに関わる公益法人として多くの事柄を学ばせていただいております。テニス界を取り巻く昨今の厳しい状況におかれましても、多岐にわたる事業展開を挑み、確実な成果を出すに至る、そのご努力につきましては十二分にご理解申し上げているところでございます。そして、今日に至るまでお力を尽くされました関係各位、協会関係者の皆様に衷心より敬意を表する次第でございます。特に近年では、ホームクラブ制度を立ち上げ、選手と事業所と愛好家を繋ぐシステムを構築しテニスの普及にも力を注がれ、また高騰する固定資産税ならびに相続税に対する施策についても逸早く動き出されています。その着眼点たるやテニス界が一目を置いております。

この10年の歳月の中で貴協会が取り組みを継続されている事業の中には、テニス界をあげて取り組むべきテーマも多々含まれているのではないかと感じております。ここ数年の間で、テニス界においても改善の兆しがみられ、テニス主要4団体が集まり、団体の垣根を越えて協力しあう動きが定着しつつあります。是非とも今まで同様、事業主の厳しい目を見て、判断して問題視しなければならない多くのトピックスをご提言いただきたく存じております。また、貴協会におかれましては、当協会と会員の登録を共にしている方が多く、貴協会の会員が経営されている事業所でコーチ業を営んでいる当協会の会員も多数おります。現状、両団体間の交流はありますが、今後はそのメリットを活かし、普及・調査・学習会など、何か共同事業に取り組み、両協会にとってプラスとなり、そしてテニス界に貢献できる事業を企画し展開できることを強く、そして心より望んでおります。

貴協会が掲げている『For the Next Round』という言葉は、まさに団体の特徴を象徴した言葉ではないでしょうか。先見の明に長け、今後も輝きを放ち、果敢に挑戦し続ける貴協会に最大のエールを送りつつ、協力出来得る事は全面的に協力し、日本テニス事業協会の更なる発展と日本におけるテニスの普及を祈願しご挨拶にかえさせていただきます。